



感謝の言葉を

校長 佐藤 由栄

23日は勤労感謝の日でした。この日は「国民の祝日に関する法律」によると、勤労をたっぴ、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日とされています。ちょっと難しい定義ですが、自分の生活はどこかで働いている多くの人のおかげでなりたっているの、誰かの仕事に感謝する日として覚えておくといのかもしれない。



さて、みなさんは、お子さんがお手伝いなどをしてくれたときに、どんな声かけをしますか。「偉いね。よくできたね」や「ありがとう。とても助かったよ」などの声かけをしているのではないのでしょうか。しかし、この2つの声かけには、大きな違いがあるとアドラー心理学で有名なアルフレッド・アドラーは、その著書の中で以下のように述べています。

「よくできたね」とほめるのではない。
「ありがとう、助かったよ」と感謝を伝えるのだ。
感謝される喜びを体験すれば、自ら進んで貢献を繰り返すだろう。



では、その違いは何でしょう。「よくできたね」は、【ほめる】言葉です。一方、「ありがとう。助かったよ」は、【感謝】の言葉です。私たちは【ほめる】ことは良いことと思っています。しかし、アドラー心理学は、【ほめる】ことは良くないこともあると言います。飴と鞭のようなもので、ほめてばかりいると、その飴がないとやらなくなるというのが、その理由なのだそうです。では、どうすればいいのか。アドラー心理学においては、相手の成長に有効なのは、【ほめる】ことではなく【感謝】することだと言います。それは、なぜか。【ほめる】ことは、「上から目線」の行為だからです。目上の人や先輩の成果に対して「よくできてますね」とは言わないと思います。【ほめる】には、自分より能力の低い相手を思い通りに操作する意図があるのだそうです。相手を操作しようとすることで、相手のやる気や主体性を奪ってしまう危険性があります。一方、【感謝】は「横から目線」です。「ありがとう」は、目上の人だけでなく、子どもたちを含めて誰にでも使える言葉です。つまり、【感謝】によって、相手と自分が対等な関係であることを伝えられます。相手を操作する意図や気配が感じられないため、相手の主体性や意欲を奪わないのだそうです。

燕北小は【笑顔とありがとうがひびきあう学校】を目指しています。今年も残りわずかです。「ありがとう」の言葉を家庭・地域でさらに増やしていきましょう。

スマイル班で遊ぼう！ スマイルウィーク実施中

児童会が中心となり「スマイルウィーク」を企画しました。縦割り班での遊びを通して、仲を深め、互いの良さを発見することを目標にしています。代表委員会で話し合った後、絆集会で全校に提案して企画を進めるなど、高学年がリーダーシップを発揮して活躍する場です。

風船バレー、じゃんけん列車、ペットボトルボーリング、なんでもバスケットなど、どの学年でも楽しめる遊びを工夫していました。挨拶やルール説明なども含めて、高学年が上手にリードする姿、互いの優しい言葉がけや拍手など、とても温かい雰囲気を感じられました。また、学年を超えて絆を深めることができました。最終回のスマイルメモリー（振り返り）では、これまで活動を振り返り、ありがとうの気持ちを伝え合います。



自己ベストめざして走った マラソン記録会

11月1日（水）晴天の下「マラソン記録会」を実施しました。『記録の伸び』や『自分自身のめあて』を意識して、これまで練習に取り組んできました。本番は、温かい応援の力も加わり、多くの子が自己のベスト記録を出すことができました。これまでの子どもたちの頑張りを家庭でたっぷりとほめていただいたことと思います。保護者の皆様からの応援、運営に協力いただいたボランティアの皆さんに、心より感謝申し上げます。



もうすぐ本格的な冬です

これから本格的な冬がやってきます。学校でも、雪囲いをしたり、教室の暖房をつけ始めたりと、「冬の装い」になってきました。最近、寒暖の差が激しく体調を崩しやすい時期です。お子さんの体調管理について今一度ご留意ください。



また、日暮れが早くなり、夕方5時となると真っ暗になってしまいます。学校では、日が短くなる冬期は、午後4時半には家に帰るよう指導しています。子どもたちの安全のために、ご理解とご協力をお願いします。

～ 北っ子の活躍 ～

★新大全国競書大会

毛筆作品 準特選 2年 E.K

★新潟県競書大会

硬筆作品 準特選 1年 Y.M.

毛筆作品 準特選 1年 Y.M.

硬筆作品 準特選 2年 E.K.

硬筆作品 準特選 3年 Y.N.

毛筆作品 準特選 5年 K.A.

